

令和7年8月26日(火)、2学年自然科学コースの選択者21名が、吉田科学館フィールドワーク(湧水コース)に参加しました。

まず、下山発電所美術館展望台にのぼり、扇状地を一望しました。その後、愛本橋に行き、昭和44年の大洪水について説明を受けました。愛本橋がある地層は安山岩でできている。安山岩は硬く、黒部川の急流をもってしても浸食する力が無く、川幅が非常に狭くなっていることを説明していただきました。

次に、墓ノ木自然公園に向かいました。ここは段丘崖が露頭している場所である。段丘崖のことを地元の人は(はば)と呼んでいる。このように露頭しているのは非常に貴重な場所であると教えていただきました。

午前の最後の活動は、高畠公民館の湧き水の水質調査を行いました。高畠公民館は黒部川から近く、水温が低いこと。実際測定すると10℃くらいで非常に冷たく、とてもおいしく感じられました。

午後からは、まず、海洋深層水施設を見学しました。施設内のパネルによって説明を受けながら、深層水の特徴や入善町での取り組みについて広く学びました。次に園家山キャンプ場に行き、高畠公民館と同様に水質調査を実施しました。さらに、園家山キャンプ場には一等三角点があります。富山県に3つしかない一等三角点が標高わずか17mのところにあるため、非常に行きやすい三角点となっています。

最後に、杉沢の沢スギに向かいました。杉沢の沢スギの歴史や、杉沢の沢スギがスギとして低緯度の限界であることなど学びました。ここでも水質調査を行いました。

この研修を通して、扇状地の植生や水質について再認識してもらい、この自然を守ってほしいと思っています。

